

熊本港

熊本県土木部河川港湾局港湾課

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

☎096-333-2515（直通）

URL： <https://www.pref.kumamoto.jp/>



1. 概況

熊本港は、県の中央を貫流する白川河口と緑川河口の間にはさまれた熊飽海岸の地先に、人口島形式により熊本都市圏と直結した物流港湾として整備が進められている。

熊飽海岸は県の中部に位置し、人口74万人を抱える熊本市の中心部からわずか10kmの圏内に入る有利な地理的条件の下にありながら、港を建設するうえで全国的にも希な厳しい自然条件（超軟弱地盤〔重層40m〕、大潮位差〔4.5m〕）であり、長らく港湾建設が着手されないままとなっていた。

しかし、近年土木技術の発達によりこうした厳しい自然条件下でも港湾建設が可能となり、新港建設に対する多方面からの要望に対し、産業流通港として昭和48年に港湾計画が策定され、昭和49年4月重要港湾の指定を受け建設が始まった。その後、港湾建設技術の進歩、新工法開発等により、昭和54年に連絡橋工事に着手して以来、平成5年のフェリーバース（-5m）完成とフェリー就航に続き、岸壁（-4.5m及び-5.5m）の供用に伴い中国からの貨物船が入港し、岸壁（-7.5m）の供用に伴い平成11年7月からは韓国（釜山港）とのコンテナ定期航路が開設、平成24年10月にはガントリークレーンを供用開始するなど物流拠点としての役割を担っている。

また、臨海用地として、平成15年7月から第一次分譲地（約10ha）の分譲を開始し、リース制度の導入により全区画への企業等の立地が完了し、更なる港湾機能の強化等による港の活性化が期待されている。

熊本港の施設は、フェリー岸壁（-5m：2バース）、公共岸壁（-4.5m：2バース、-5.5m：3バース、-7.5m：1バース）及び漁船：官公庁船舶だまりが完成・供用しており、引き続き岸壁（-7.5m：1バース、-10m：1バース）及び航路・泊地等の整備を進めていくこととしている。